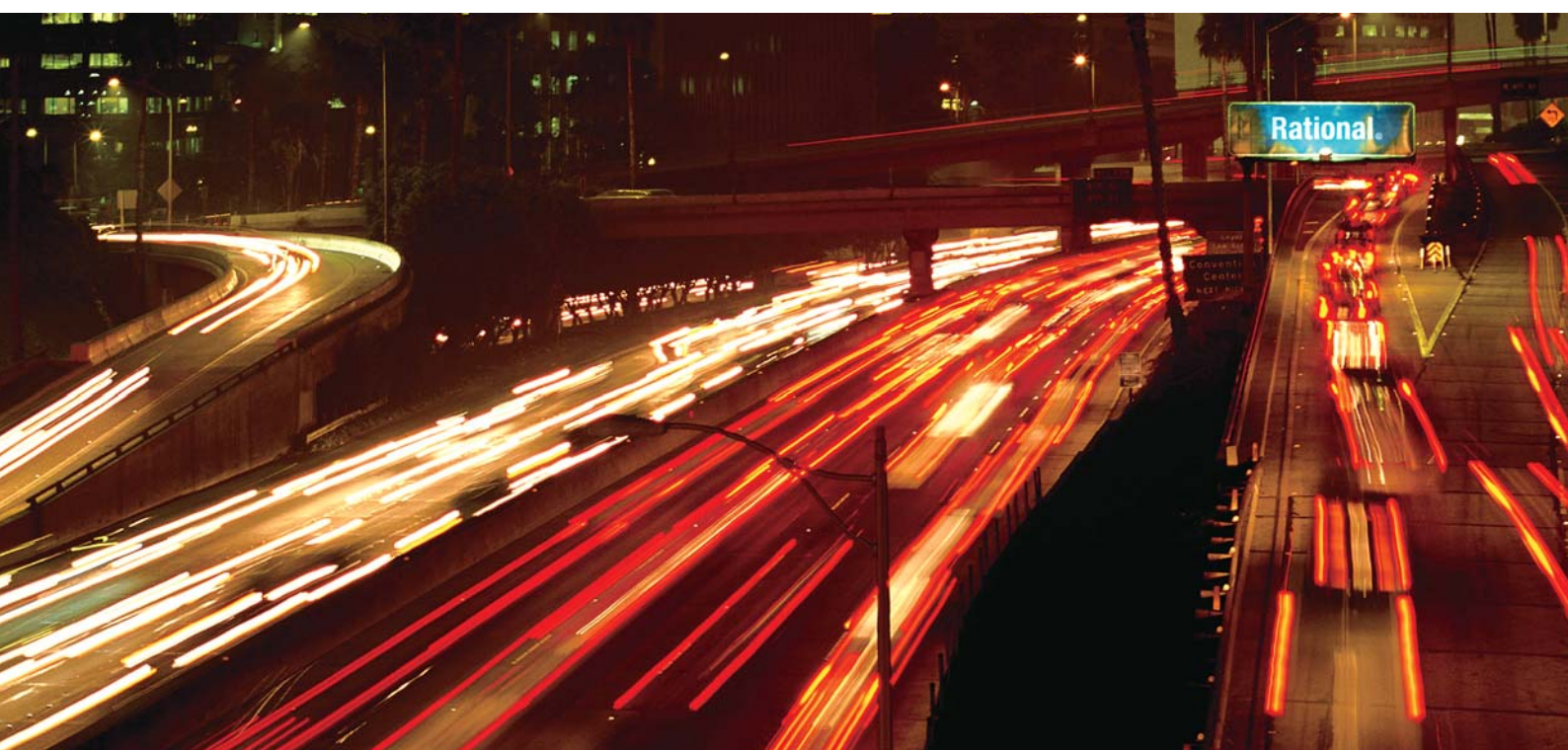


z/OSアプリケーション開発環境を刷新する Enterprise Modernization

生産性向上への第一歩



Enterprise Modernizationとは

大規模な企業システムにおいて今でも欠くことのできないz/OSアプリケーション。

反面これまでの追加開発や改修によりメンテナンス・コストの増加が問題になっています。この問題を解決するために、メンテナンス環境の改善やアプリケーションの再構築を考えられているお客様が増えてきているのが現状です。

Enterprise Modernizationは、これらのご要望にお応えするRational製品による最新のz/OSアプリケーション開発環境です。

z/OS®アプリケーション開発環境を刷新する Enterprise Modernization製品群

z/OSアプリケーションの開発/保守に特化した製品をご紹介します。

Enterprise Modernization製品群にて開発環境のベースをまずご検討下さい。

将来的にはそれぞれの開発環境に必要とされるエリアの整備を、

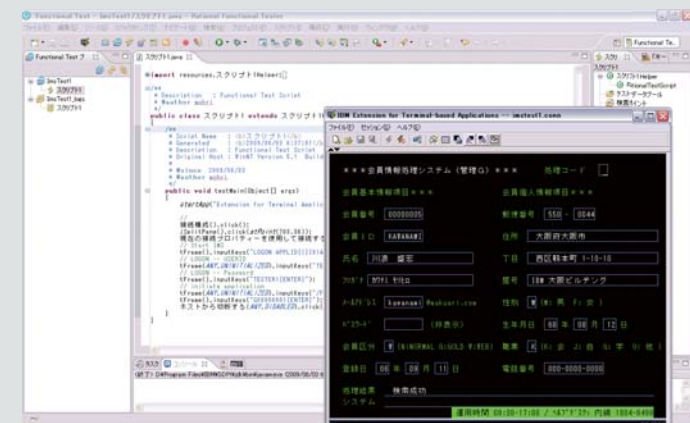
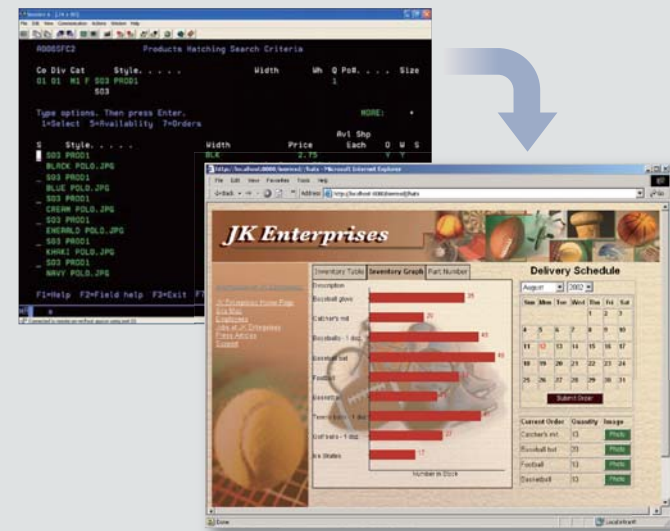
順次進めていただける拡張性のあるソリューションになっております。

その他のRational製品と併用すれば、さらにコスト削減が期待できます。

Rational® Host Access Transformation Services (HATS)

既存アプリケーションに変更を加えることなく、オンライン・アプリケーションのWeb化が可能です。

- アプリケーションの変更を必要としないWeb化の実現
- ルールベースの自動変換による容易なWeb化
- 豊富な画面カスタマイズ機能により付加価値のあるWeb化を実現



Web化

既存オンライン・アプリケーションを迅速かつ容易にHTMLインターフェースに変換、SOAにも対応



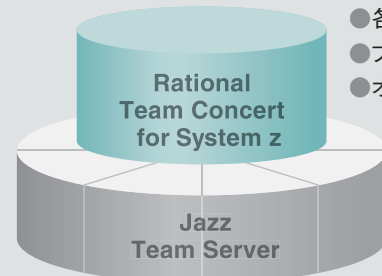
チーム開発環境・構成管理

「理想的なチーム開発環境」を提供する標準プラットフォーム

Rational Team Concert™ for System z (RTCz)

z/OSアプリケーション開発プロジェクトに、構成管理、作業管理、リリース管理等、最新のチーム開発環境を提供します。

- 各種製品とのシームレスな連携
- プロジェクト・メンバー間の円滑なコミュニケーションを促進
- オープンで拡張可能なJazz™プラットフォーム



開発

既存資産のメンテナンス作業の迅速化とコスト削減

Rational Developer for System z® (RDz)

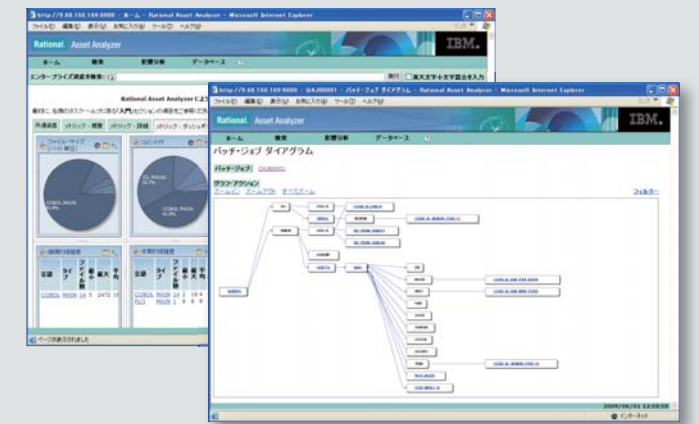
生産性の高い開発環境であるEclipse上でCOBOLやPL/Iアプリケーションを開発できます。

- Eclipseのインターフェースによる生産性/品質の向上
- PC上でのローカル開発/リモート接続によるリモート開発(z/OSアプリケーション接続)両方に対応
- ローカルでの構文検査やデバッグを活用したz/OSアプリケーション負荷軽減
- コンテンツ・アシスト(入力支援機能)によりz/OSアプリケーション未経験者の参画も容易

Rational Asset Analyzer (RAA®)

既存アプリケーション資産の棚卸、可視化、そしてアプリケーション再構築に有効な製品です。メンテナンス時の影響分析作業も効率化します。

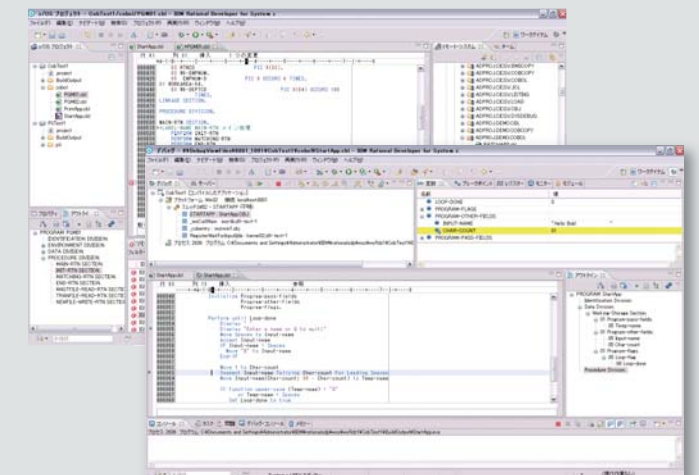
- z/OSアプリケーション資産(プログラム、JCL、データ等)を全て登録することによる棚卸
- 登録時の分析結果に基づく正確な影響分析
- データの流れを把握した波及分析
- 分散系資産(Java™など)も含めた統合管理
- 影響分析作業の属人性をなくし、未経験者の参画を促進



Rational Developer for System z HLL/WB Edition

RDzをベースとし日本語仕様書での開発を支援する機能が追加されています。日本語仕様書からCOBOLやPL/Iソースを生成(リバースも可能)できます。

- 業務用語の活用(用語辞書)
- 日本語仕様書での開発(用語辞書/略号表)
- 日本語仕様書ベースでの構文チェック機能
- COBOLのパスカパレージ取得機能



テスト

自動化によるテスト品質と生産性向上

Rational Functional Tester (RFT)

3270/5250オンライン・アプリケーションやWebアプリケーションの機能テストを自動化します。

- テスト・シナリオの自動登録(キー操作、マウス操作など)
- テスト・シナリオのカスタマイズによる再利用性の確保
- 自動テストによるテスト作業の属人性排除
- テスト結果の自動評価による生産性/品質の向上

Rational Team Concert for System z

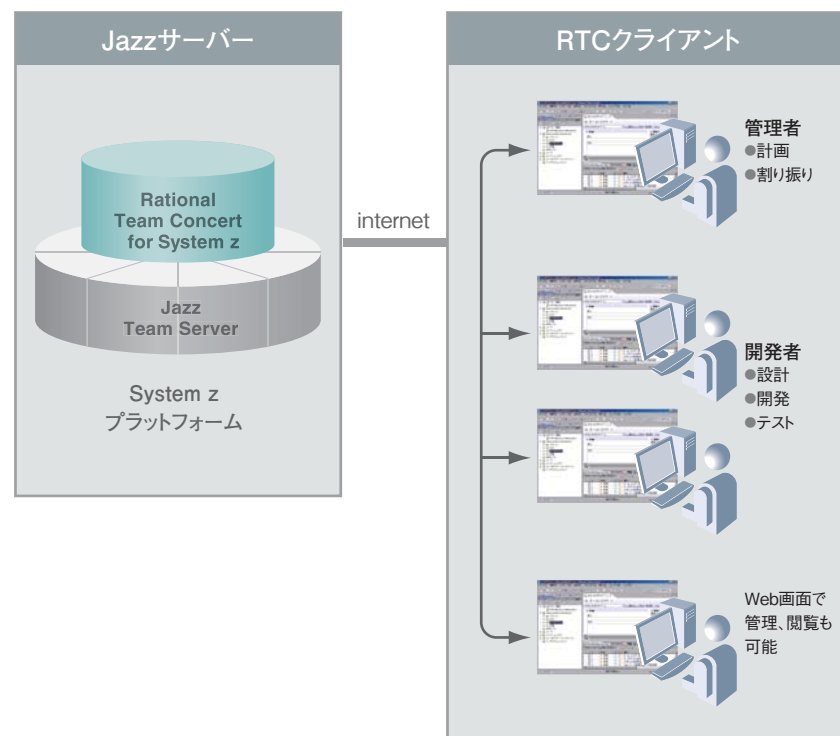


チーム開発環境の構築

z/OSアプリケーション開発では古いインフラや昔の開発標準を踏襲しているため、新しい開発環境/標準を取り入れることが困難でした。Rational Team Concert(RTC)は、Rational製品をシームレスに連携したチーム開発環境を構築できるため、効率的で生産性の高い開発環境/標準の確立が可能です。これを実現するためのソリューションとしてRTCが用意されています。RTCを開発環境構築のコアとすることにより、構成管理、作業管理、リリース管理など、開発工程全般におけるチーム開発環境を構築できます。

Rational Team Concertとは、

Rational Team Concert は、プロジェクト・メンバーの共通の開発環境基盤として、ワークアイテム(アサインされた作業)管理、ビルド(リリース)管理、ソフトウェア構成管理を組み合わせたソリューションです。カスタマイズ可能なポータル・ビューを使用して、ワークアイテム、現在の進捗状況、イベントなどプロジェクトの情報をメンバー間で共有できます。また、作業中に必要な情報の交換が容易に行えるため、打ち合わせやレビューに要する時間の節約ができます。変更作業が発生した場合には、必要なプロジェクト・メンバーへ情報を自動的に通知し、コミュニケーション・ミスによるトラブルを回避できます。



Rational Team Concert for System z(RTCz)の特長

RTCzはz/OSアプリケーションの開発環境向けに提供されるプロジェクト共通の開発環境基盤です。RTCが提供する機能に加え、z/OSアプリケーション開発に必要とされる各種機能を追加しています。RTCzを活用することによって、単一のツール導入に比べ、より多くのコストを削減できます。

RTCzサーバーはz/OSアプリケーション環境に構築可能

- z/OS と Linux® for System zをサポート

z/OSアプリケーションの開発を支援

- RDz リモート開発との統合
- z/OS PDSのサポート
- z/OS ビルド(リリース)・サポート
- z/OS PDSから既存のソースのインポート
- z/OS 開発者用のプロセス・テンプレートの提供

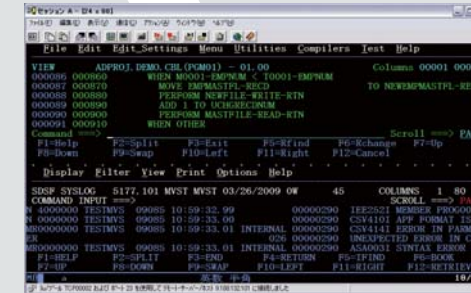
z/OSアプリケーション上のソース変更管理(SCM)との連携強化

- PDSと既存SCMのワークアイテムとのリンク
- 既存SCMの制御を可能にするプロセス統合

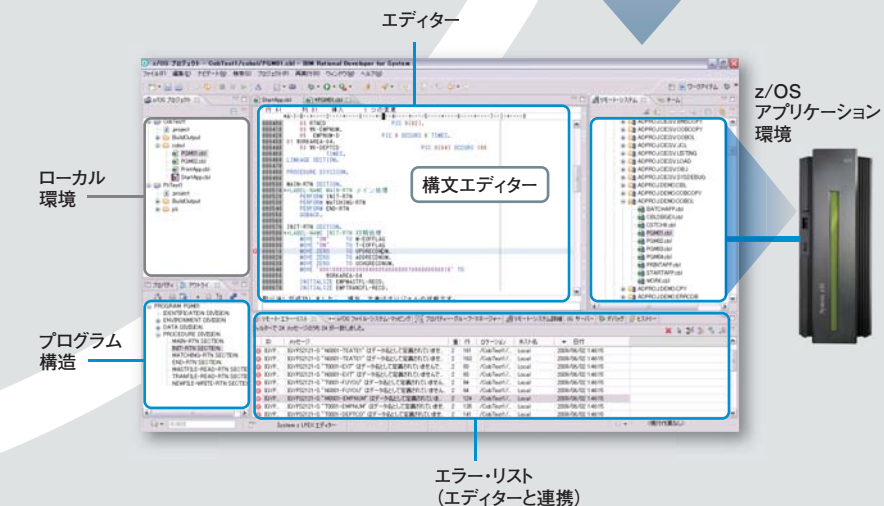
z/OSアプリケーション開発環境の現状と Enterprise Modernization

z/OSアプリケーション開発環境は残念ながら20年前とほとんど変化のない状況にあります。分散系開発環境では豊富なツール・セットを活用してアプリケーションの開発やメンテナンスを実施し、生産性/品質を向上させています。しかしz/OSアプリケーション開発環境ではまだに作業の中心となるのはTSO/ISPFを利用した24×80のグリーン・スクリーンでの作業になっています。

またこれまでの度重なる修正作業により、基幹のアプリケーションを正確に把握できない、あるいは分析作業に多大なワークロードと時間を必要とするなどの課題も山積しています。今後はz/OSアプリケーションの開発やメンテナンス作業にz/OSアプリケーション未経験者にも参加してもらわなければならないという課題も存在しています。メンテナンス地獄という昔からの問題は何も解決されていないのです。



Enterprise Modernizationで何がかわるのか?



いま、コスト削減こそが企業にとって最も望まれていることではないでしょうか? 長年、拡張や保守を繰り返してきたz/OSアプリケーションの開発環境は、このままであればさらなる改修によってさらに複雑化したシステムを運用することになります。これではIT予算が増加するばかりでコスト削減は不可能です。Enterprise Modernizationはこれらの課題を解決するために以下のことを可能にします。

- 再構築のためのアプリケーション資産の棚卸/整備
- 影響分析作業の生産性/品質の向上
- メンテナンス環境の効率化

Enterprise Modernizationで提供する製品を活用することにより、z/OSアプリケーション開発環境が刷新され開発/メンテナンスのコストを削減します。

複雑化したアプリケーションの理解を容易に

メンテナンスや再構築の対象となるアプリケーションの棚卸/整備は、コスト削減にかかせない作業です。これによりアプリケーションのメンテナンス作業にかかるワークロードを削減することができます。Rational Asset Analyzer(RAA)を利用して、既存資産から自動的に必要な情報を抽出することにより、お客様は最小限のワークロードで資産の棚卸が可能になります。これらのアセットから抽出/収集された情報は関係データベースに登録され、その後のメンテナンス作業の重要な情報源となり、正確な影響分析を可能にします。

RAAにより、多くのワークロードを必要とする影響分析作業を正確かつ効率よく実施することができます。これまで問題となっていた影響分析の工数を削減するとともに、分析漏れによるトラブルも回避することが可能です。また同時に、これまで経験者の頭の中だけにあった情報が製品に格納/可視化されるため、z/OSアプリケーション未経験者の起用も促進されます。再構築を計画中のお客様にとって重要な最初のステップにもなります。

開発および変更作業の効率化

現在のTSO/ISPFによるプログラムの開発および修正作業はどうなるのでしょうか? Rational Developer for System z(RDz)は、分散系開発でよく使われるEclipseをベースにした統合開発環境(IDE)に、z/OSアプリケーション特化の機能を追加し、COBOL、PL/Iの開発をPC上で可能にした使いやすく、生産性の高い製品です。コード修正以降のすべての工程で、RDzの効果が望めるため短期間で投資を回収できます。

メンテナンス作業のコスト削減、アプリケーションの再構築

Enterprise Modernizationをお客様の開発環境に適用いただければ、IT予算の7割とも8割ともいわれているメンテナンス・コストを削減できます。これにより、新規エリアへの積極的な投資でビジネスへの貢献を実現していただけます。



*IBM, IBMロゴ, ibm.com, JazzおよびRational, Rational Team Concert, RAA, System z, z/OSは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標。
*JavaおよびすべてJava関連の商標はSun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標。
*LinuxはLinus Torvaldsの米国およびその他の国における商標。
*他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。

Enterprise Modernizationの詳細情報は
下記のWebサイトをご覧ください。

ibm.com/software/jp/rational/solutions/em/

お問い合わせは、IBMビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員、
E-mail (rational@jp.ibm.com)

または、ダイヤルIBM (☎0120-04-1992) へ。

受付時間: 月～金9:00～18:00 (祝日、12/30～1/3を除く)

フリーダイヤルをご利用いただけないお客様は下記の電話番号をご利用ください。
ダイヤルIBM 03-6220-8002 (この場合、通話料金はお客様のご負担となります。)



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
06-09 Printed in Japan

●このカタログの情報は2009年6月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。
●記載のデータはIBM社内の調査に基づくものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。●製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。